



関西支部報

http://www.jackansai.com

日本山岳会関西支部 設立80周年記念式典のご案内

関西支部は1935(昭和10)年9月1日に設置され、来年には設立80周年を迎えます。これを記念して支部では、記念式典・フォーラムの開催、『八十年史』の発刊、記念海外登山隊の派遣などに取り組んでいるところです。このたび、式典・フォーラムの骨子が決まりましたのでご案内申し上げます。会員各位多数のご参加をお待ちしております。

日程 2015年5月30(土)～31日(日)

1日目：記念式典・フォーラム、祝賀会
(受付13時30分 開会14時30分)

フォーラム：「但馬が生んだ孤高の登山家、
加藤文太郎と植村直己」

① 講演「孤高の登山家植村直己を語る」
松浦輝夫氏

② 朗読劇「山の声～ある登山家の追想～」
加藤芳樹氏ほか

③ 歌とトーク「孤高の人～加藤文太郎の歌～」
リピート山中氏

2日目：記念山行 六甲山(931m)

A班：阪急芦屋川駅～高座の滝～ロックガーデン～
六甲最高峰(約4時間)

B班：東お多福山登山口～東お多福山～六甲最高峰
(約3時間半)

C班：神戸北野異人館散策(約2時間) バスで六甲
最高峰

山頂で昼食。記念写真撮影後、有馬温泉へバスで移
動・入浴、バスで新神戸、三宮へ送迎。

(17時頃解散予定)

日本山岳会関西支部 設立80周年記念式典のご案内	1
平成26年度夏季懇談会報告	1
参加者名簿	2
欠席者のたよりから	2
関西支部新年会のお知らせ	3
蔵書を読む会案内	3
関西支部と私	3
楽しかったチロルスキー	4
人と出会うのも登山バイ	4
私のとっておきの山行	4
台湾・玉山の沙	4
里仙溪敗退記	4
支部山行報告	5
ゆるやか山行「里山探訪」	5
を訪ねる9	6
関西支部県境縦走19	6
4000山グランプリ	6
4000山グランプリ	7
ゆるやか山行「里山探訪」	7
歴史と文化	8
を訪ねる15	8
「本山寺山森林づくりの会」	8
作業報告	8
秦 康夫	9
スケッチ同好会(第2回)報告	10
個人山行の登山計画書(届)の提出と緊急連絡カードの携行についてのお話し	10
スケッチ同好会例会のご案内	11
予期せぬ出来事	11
山の音楽(4)	11
自己紹介	12
水谷 透	12
重廣恒夫	11
立山連峰に魅せられて	13
村田かおり	13
追悼	13
魚津清和	13
大西保さんを偲んで	14
水谷弘治	14
吉永定雄さん「憧憬のトルボ」	14
会務報告	16
第3回委員会議事録	16
新入会員	16
ルーム日録	17
受贈一覧	17
第25回藤木祭	17
会計報告	17
支部山行計画	17
15年1月～3月	17
自然保護行事	19
15年1月～3月	19
編集後記	20

会 場	ホテル北野プラザ六甲荘 神戸市中央区北野町1-1-14 (新幹線新神戸駅南西へ徒歩12分)	
定 員	式典・フォーラム	150名
	記念山行	90名
費 用	式典・フォーラム	無 料
	祝賀会参加費	1万円
	記念山行参加費	3千円
	(弁当、バス代、入浴料を含む)	
宿 泊	希望者には「六甲荘」を斡旋します。 (1泊朝食付き1万1千円)	
問 合 せ	関西支部 金井良碩 (携帯電話090-8206-9566)	

申 込

氏名、住所、電話番号、会員番号を明記の上、2015年3月末までに、関西支部式典担当係宛、郵送またはメールでお申し込みください。

〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22号
梅田東ビル304号
e-mail kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

- * 申込者には詳細を連絡します。
- * 祝賀会と記念山行の参加は、日本山岳会会員及び関西支部会友に限ります。

平成26年度 夏季懇談会報告

「南極とヒマラヤで学んだこと」から 生活を振り返る

深沢太香子



夏季懇談会が8月27日(水)に、ホテルグリーンプラザ大阪・アネックスにて開催されました。講演では

横山宏太郎氏を講師に迎えて、「南極とヒマラヤで学んだこと」についてご講演いただきました。

横山先生は、2回もの南極観測隊越冬隊員(うち1回は越冬隊長)のみならず、ヒマラヤを何度もご経験されており、科学者として、そして登山家としても大変著名な方です。私も以前、山や極地という平地とは異なる“特殊環境での衣服”に関する横山先生のご講演を、大変興味深く聴かせていただいたことがあります。この度のご講演では、“人の生活と環境”について、とても示唆に富んだお話をうかがうことが出来ました。そのキーワードとして、多様性、人体の能力、共存の3つを挙げられるかと思えます。

多様性：地球という惑星には様々な自然環境があり、それぞれの地域には、その気候風土に根ざした文化や精神を持つ人々が生活しています。地球上で共存していくためには、多様性をお互いに理解し協調する意識を育てていくことが、世界がより身近と成っている現在、とて

も大切なことであることを強く感じさせられました。

人体の能力：人体には周囲の環境に慣れそして順応できる適応能力があります。さらに、他の哺乳動物にはない優れた体温調節機能も持っています。それに加え環境に合わせて着衣の量を調節できることです。ご講演では、近年、特に発達した人工環境下での生活は、ヒトの優れた体温調節機能を発揮せず、人体を間違った方向に適応させてしまう恐れのあることを示唆されました。

共存：登山や南極などの特殊環境で生活を営むには、必要な物と使用した物のバランス、つまり、モノゴトの収支がとても大切です。環境との共存を意識して、人体の能力を上手く活用すれば、最小限のエネルギーと物資で人間は生活を営む事ができることを、ご自身のご経験から大変興味深くかつ説得的にお話いただきました。

これら3つをキーワードとして、人間の持つ能力を活用した地球との共存について、今一度考えさせられた非常に示唆に富んだご講演でした。これを機会に、自分の日常生活を振り返り、私も衣服による気候への適応を、一層心がけています。

講演後には、横山先生を交えて、美味しい料理とお酒を楽しみながらの懇親会が開催されました。横山先生から南極の氷というサプライズのお土産を頂戴し、お酒に浮かべた氷から奏でられる太古の空気の弾ける音を楽しみながら瞬く間に親睦の時間が経ちました。

平成26年度夏期懇談会参加者名簿

新井浩 新本政子 岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓 大津陸郎
岡村順子 斧田一陽 金井健二 金井良碩 金銅八千代 川久保

美美子 清瀬祐司 釘本武昌 久保和恵 河野直子 小島一喜
 小寺佳美 薦田佳一 阪下幸一 坂田洋子 重廣恒夫 城隆嗣
 高木知子 高木稔 田頭夏子 田島聖子 辻和雄 中島隆 中谷
 絹子 西尾俊子 野口恒雄 橋本圭之輔 平井一正 平林克敏
 廣瀬貞雄 廣田猛夫 深沢太香子 堀江佳市 水谷透 宮川流太
 郎 宗實二郎 宗實慶子 村上幸子 村田かおり 茂木完治 山
 内幸子 (会員外) 大塚貴昭 大西由美 大橋芽美 栗尾雅恵 玉
 木加絵 若林朋世 計53名

日本橋まで相当かかりますが頑張ってみようと思いま
 す。東下り、大石内蔵助の心境です。 羽田英彦

6月初めから右腰から膝にかけて激痛がはしるよう
 になり、何軒かの医院に通い、今「AKA治療」という療
 法の整形外科で何とか良い方向に向かっております。“今
 年はゆっくりしろ”という天のおぼし召しかと思い、六
 甲全縦も欠席しようと決めました。じっくりと休養させ
 ていただきます。夏季懇の不参加、お許しください。

前田正彰

夏季懇談会欠席者のたよりから

暑く不安定な天気が続いています。久々に妻と二人で
 遠見尾根から五竜岳、唐松岳を経て八方尾根を下しま
 した。しかし風、雨、霧でつらい縦走になり、あの素晴
 らしい山なみが見られなかったことが残念でならなかつ
 た。もう毎年のように山に行けない年齢になり、一層悔
 しい想いが強くなります。盛会を祈ります。

川田哲二

東お多福山保全草原・再生事業も7年目を迎え、協力
 団体も増え、行政の協力も厚くなり、草原では序々にで
 はありますが成果が見えてきました。何より環境省と兵
 庫県神戸県民センターの協力は大きいと思います。ガイ
 ド養成講座は今年も開かれます。官民力を合わせてスス
 キ草原を守ろうという強い合意形成によるものだと思
 います。手を付けてはいけない自然もあれば、守り育て
 る自然もあるのです。それが、この東お多福山であり、ま
 たブナを植える会です。東お多福山の古い写真あれば提
 供ください

桑田 結

ちょうどスイスへ登山に出かけている時期です。参加
 できなくて残念です。

関戸京子

欠席いたしますが、かなり元気を回復しています。但
 馬ハチ高原の山小屋のお世話にも出かけています。山小
 屋は氷ノ山逆ブン廻しコースの起点に好適です。ご利用
 ください。紅葉登山がおすすめです。

高田 誠

1昨年、昨年、今年1月から2月、5月と3年間で4
 回も入院しました。今年は何もないよう願っております。
 ご盛会でありますように。

遠山誠之介

いつもありがとうございます。現在、東海道五十三次
 を歩いています。月1回宿から宿へ歩きます。東京(江戸)

夏の終わり頃には毎年、細野に行きますので欠席させ
 ていただきます。

山本光二

仕事で参加できません。土日で身体が空けば近場日帰
 りの山行で足腰の運動をしております。又、早朝ジョギ
 ングも最近始めました。年齢を感じる歳になってきまし
 た。支部の山行に参加させていただく際、おじゃま虫に
 ならないよう少しでも鍛えておきます。

吉田賢治

「蔵書を読む会」案内

日時 2月23日(月) 13:00~17:00予定
 会場 支部ルーム

(図書委員会)

関西支部新年会のお知らせ

関西支部恒例の新年会を下記のとおり開催いた
 します。お誘い合わせのうえご出席くださいま
 すようご案内申し上げます。

日 時 2015年1月28日(水) 18時30分~
 会 場 大阪梅田「大東洋」 電話06-6312-7525
 会 費 6,000円

出欠は同封のハガキに50円切手を貼って、
 1月20日までにご投函ください。

協会溯溪組」を作り、莊再傳さんは梁明本さんと共に85年に「台北溯溪倶楽部」を作った。以後台湾で沢登りの会が多く作られていく。莊さんは中華民国山岳協会から独立して2000年に「中華民国溯溪協会」を立ち上げて現在に至っている。

私は、最近は沢だけでなく縦走も楽しんでいる。関西支部の仲間と一昨年秋に秀姑巒山3805m、昨年秋は雪覇稜線縦走を行った。これからも歩ける限りは台湾へ通って、台湾岳友との交流を続けながら台湾での沢登りの発展を見続けて行きたいと思っている。

支部山行報告

支部山行13-34 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる9

檀原神宮初詣と大和三山

1月9日(木)曇一時雨

耳成山は大和三山の中で姿の一番美しい山である。旧醍醐環濠集落地域を通り藤原京跡に入る。高殿町を通り下八釣町から町並みを抜けて天香具山へ。登山口からは階段道を山頂まで登る。昼食後、畝傍山に向けて歩く。飛鳥川の橋を渡った辺りでパラパラと来た。本降りになったので近鉄畝傍御陵前駅地下通路にて雨宿り。暫くして雨も上がり三山の中で一番高い畝傍山に登頂。濡れた山道を滑らぬ様に檀原神宮に下りた。此处で解散となったが、一部の方とは神武天皇陵、今井町を見学しながら大和八木駅へ向かった。



畝傍山山頂で正月記念撮影 写真提供：中島 隆

【コースタイム】

近鉄大和八木駅09:35—10:26耳成山—11:22藤原京跡—12:01天香具山12:40—13:10紀寺跡—13:59畝傍御陵前駅—14:35畝傍山—15:13檀原神宮—15:31神武天皇陵—16:30今井町町衆博物館—17:05大和八木駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 岩崎しのぶ 上田典子
魚津清和 内田嘉弘 内田昌子 大塚宏国 大塚和子

金井健二 小林貢 戸島泰三郎 中島隆 中谷絹子 野村哲夫 平井一正 松波幹夫 宗實慶子 森澤義信
(会友)岐部明弘 小林三喜男 中田栄 中野峯子 横山規江 (会員外)秋月修次 浅田博三 計27名

支部山行14-13 関西支部県境縦走19

滝峠～江笠山～神懸峠～西石分岐

渡邊 豊

7月26日(土)晴

宮津駅からタクシーで滝峠へ。クーラーの効いた車中でも汗が流れ出てくる。この時間帯宮津での気温は35度。この後最高気温は37度まで上がることとなる。滝峠を出発。P363まで踏み跡を交えながら直登。樹林帯に入り直射日光は遮ぎられるが無風状態。期待していた藪は現れない。以降、県境は落ち葉と枯れ枝が薄くつもった状態で踏み跡はあまり見当たらない。歩きやすい尾根を小ピークのアップダウンを繰り返しながら南下。鹿ノ熊分岐手前辺りの尾根で西からの風が吹きはじめるが汗が引くことはない。風は強弱を繰り返し時間が立つにつれ気持ちの良い涼風へと変わっていく。江笠山手前標高500m地点で取水の為、東斜面を下る。シダの群生を抜けると小川があり林道の脇を幕営地とする。

7月27日(日)小雨

3時起床、空には満天の星。目の前には蛍も。雨が予想されるので1時間早めに出発する。しかし昨日の終了ポイントに戻ったあたりで江笠山は霧に包まれ、やがて小雨となる。しばらく緩やかな尾根を南下後230mの標高を稼ぐと江笠山山頂(727.8m三等△)に到着。山頂は広くひらけており休息を取る。江笠山を越えると下りとなり、小休止を交えながら神懸峠へ。今日は時折寒さすら感じられる。鮮やかな竹林帯を抜けると神懸峠へ到着し休憩。この後、標高差130m程の急斜面も緩やかなペースで一気に登りきる。スギなどの喬木がこれまでの景

色を一変させる。荒神谷 (571.9m 三等△) を越えると広く伐採が進んだ区域に出る。南西方面の視界が開け県境にあるP633.3の電波塔が遥か遠くにそびえる。やがて今回の終了地点西石分岐に到着した。

【コースタイム】

26日 滝峠11:30—12:05P 3 6 3—14:30鹿ノ熊分岐15:00—16:10P 5 0 0—16:50幕营地

27日 幕营地04:20—04:50P 5 0 0—06:38 江笠山07:00—08:59神懸峠09:30—10:31荒神谷11:10—12:07西石分岐12:15—12:41西石集落

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 久保和恵 黒田記代 野村珠生
青木昭 渡邊豊 計7名

支部山行14-14 4000山グランプリ
南アルプス深南部
(中ノ尾根山から合地山・鶏冠山)

松仲史朗

8月13日(水)曇

JR飯田線水窪駅よりタクシーで白倉権現の林道ゲートまで入る。宿泊地予定の休憩所までは約9kmの林道歩きである。750m先に朝日山登山口が、さらに1.75km先で黒沢山登山口の黒沢橋を通過する。西俣沢に掛かる白倉橋を過ぎて1.5km程で林道は終わり南方に黒沢山が見える21林班休憩所に到着した。休憩所はストーブを囲むようにベンチが配置されて3人が横になれる広さがあり、テントより快適である。

8月14日(木)雨

朝方、鹿が歩く気配を感じて目が覚める。休憩所に15日夜と16日の食料をデポし、中ノ尾根山登山口より登り始める。P1830手前より少し雨脚が強くなり雨具を着け、3人が雨宿りできる大岩の脇で休憩をとる。倒木と熊笹の神秘的な広い尾根が続き、どこが道かわかり難い。P2214から広い緩やかな樹林帯の稜線を熊笹が覆い尽くし、倒木も多く思うように進めない。針葉樹林に囲まれた二等三角点の中ノ尾根山に到着。テント設営後、合地山往復を目指す。倒木と熊笹の稜線が続き雨に濡れた熊笹が足にまとわりつく。雨風も強く最低コルから合地山I峰の到着に1時間を要した。続く合地山II峰では本降りの中、記念撮影を終えて折り返す。P2104通過後北斜面で雨水を取水し、中ノ尾根山に戻った。

8月15日(金)雨

今日も雨が降る中、鶏冠山南峰北峰を目指し稜線を北

に歩く。倒木と熊笹の稜線を辿り三俣山に到着。頂上の少し手前に分岐点があり左の白倉山・朝日山方向の踏跡は明確である。鶏冠山へは右の稜線に行く。P2194通過後にガレの縁に出た。念のためにロープをつけてガレ尾根を通過。ガレの縁すれすれまでハイマツが茂っているため慎重に歩く。岩場の巻き道を数ヶ所抜け、4時間後、鶏冠山南峰山頂標識を眺める。さらに岩場を1時間辿り鶏冠山北峰に着いた。雨脚が強い中、休憩もほどほどにUターンする。中ノ尾根山のテント撤収後、21林班休憩所に戻った。デポしておいたビールで疲れを癒し、明日の下山に備えた。



ロープをつけて鶏冠山へ 写真提供：重廣恒夫

8月16日(土)曇後晴

白倉権現に下山後、タクシーで水窪駅に向かう。豊橋駅行の特急列車はUターンの帰省客で一杯だった。

【コースタイム】

13日 白倉権現13:20—16:22白倉橋—17:36休憩所

14日 休憩所04:50—09:21中ノ尾根山09:50—12:57合地山I峰—13:32合地山II峰—18:53中ノ尾根山

15日 中ノ尾根山05:11—09:00鶏冠山南峰—09:56鶏冠山北峰—11:04鶏冠山南峰—15:00中ノ尾根山15:30—18:13休憩所

16日 休憩所04:59—07:57白倉権現

【参加者】

重廣恒夫 野村珠生 松仲史朗

支部山行14-17 4000山グランプリ
近見山・楢原山・高縄山・国見山

滝 由喜子

9月13日(土)晴

愛媛県の道の駅「湯ノ浦温泉」に集合し、先ず近見山に向かう。駐車場から歩き、10分程で展望台へ。しまなみ街道、瀬戸内海を一望し、三角点へ。次に楢原山に向かう。楢原山へは林道湯ノ谷線の終点から歩き始める。途中、馬神社、牛神社、初代・二代目子持ち杉等を見、神社がある楢原山に着く。奈良原神社は牛馬を守る神として信仰され、又国宝に指定された銅宝塔を始め遺跡が見つかった歴史のある神社だったらしい。楢原山は南朝の長慶天皇が逃れ隠棲されたとも伝えられている。往路を下り、次に高縄山に向かう。今回は三座登るので車で高縄寺近くの駐車場まで行く。山頂までの道は野鳥の声も多く聞こえる自然林で、バードウォッチャーも多いらしい。実際、可愛い小鳥の姿が見られた。高縄寺の境内には千手杉の大木があり、伊予水軍河野氏の菩提寺らしく水軍ソバの店があった。山頂には三角点、電波塔があり、展望台に登ると澄み切った秋空に360度の大パノラマ。先程登った楢原山、皿ヶ峰、北に北条市、石鎚方面と素晴らしい眺めだった。展望を満喫して元来た道を下る。夜は、旧神子野小学校体育館で焼肉パーティーの後就寝。

14日(日)晴

大歩危で一日参加組と合流し、国見山登山口へ向かう。後山(おうどう)峠の金比羅神社前から杉林の尾根に行く。次第に自然林が多くなり、一登りすると広い駐車場がある林道川崎・国見山線の新登山口に出る。コンクリートの階段を登り登山道に入る。しばらく登ると杉林の広い防火帯となり、何回か作業道に出会う。防火帯を過ぎ1370mあたりから南西斜面にブナの大木が現れ、気持ちの良いトラバース道になり、大岩の下の国見神社に着く。小屋の横をすり抜け一登りで山頂に出る。山頂からは国見の名に恥じない360度の展望だった。今日は国見神社の祭礼だそうで地元の人達が大勢登っていた。国見神社が大切に守られているのを感じた。同じ道を下り、松尾川温泉で汗を流した。

【コースタイム】

13日 近見山駐車場09:24—09:44近見山△—09:52駐車場＝楢原山駐車場11:14—11:37楢原山—12:24駐車場＝高縄山駐車場13:37—14:11三角点—14:55駐車場

14日 おうどう峠09:07—09:40後山分岐—10:07林道横断点—11:48国見山三角点12:10—12:55おうどう峠

【参加者】

重廣恒夫 松村文子 村田かおり 野村珠生 (会員外)
立野早織 (四国支部)尾野益大 清家一明 今井順一
滝由喜子 (14日のみ・四国支部)仁田祐二 小林京子
長瀬美代子 13日 9名 14日 12名

支部山行14-18 ゆるやか山行

【里山探訪】歴史と文化を訪ねる15

裏六甲 古寺山

秋月修次



安置されている九体仏 写真提供：魚津清和

9月18日(木)

6月以来の例会です。久しぶりの再会、参加者全員元気な顔を拝見しているだけでも楽しくなります。先日の豪雨の影響で一部通行規制があり、当初の予定から専念寺—山王神社—古寺山ルートに変更となりました。

おしゃもじ地蔵で準備運動をしてから、鐘撞堂がちょっと東南アジア風の専念寺(別名アジサイ寺とも)をお参りし、稲刈り風景を右に見ながら山王神社へ向かいます。山王神社は上唐櫃、下唐櫃の2か所にあり、今回訪れたのは下唐櫃の山王神社です。

山王神社を後にして猪ノ鼻滝を右に見ながら、今日はゆっくり目の道行といった感じで、木陰を涼しく歩いていきます。仏谷の道に少し入った堰堤辺りで昼食です。時間もとってゆっくりといただきました。

昼食後、古寺山登山口に向かいます。時間的に余裕がある為、少し寄り道をしてシュラインロード近くにある九体仏を見学。九体仏は裏六甲ドライブウェイ建設の折、掘出された仏様だそうです。シュラインロードの鳥居をくぐり古寺山登山口に戻って行者道を行います。行者道は本日初の山に来ていると感じられる道でした。

古寺山頂上(636m)には修行岩と清盛の涼み岩が有り、

修行岩で記念の集合写真を撮りました。展望岩からは遠くに淡路島も望めました。帰り道は表参道を下ります。行きは良い良い帰りは恐い、帰りの道はきつかった。だから登りの高さを、半分位の距離で降りてくるような感じで、足腰が鍛えられます。無事、唐櫃台駅に到着。駅前で各自思い思いに休憩し、三々五々家路につきました。

【コースタイム】

神鉄有馬口駅10:02—10:12おしゃもじ地蔵—10:45山王神社—11:52仏谷入口堰堤（昼食）12:31—13:07九体仏—

13:20古寺山登山口—14:05古寺山14:24—15:05下山口—15:35神鉄唐櫃台駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新井浩 新本政子 上田典子 魚津清和 金井健二 薦田佳一 戸島泰三郎 橋本圭之輔 平井一正 松波幹夫 松村文子 水谷透 宗實慶子 (会友)岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 中田栄 中野峯子 横山規江 (会員外)秋月修次 田中アキエ

計23名



「本山寺山森林づくりの会」作業報告
 秦 康夫

2014年7月20日(日)9:30~15:40

東海自然歩道の「天狗杉」から西へ伸びる天狗尾根は、本山寺山の頂上から国有林と民有林を画する境界尾根となって南南西へと下っている。作業地である「干害防備保安林」は、ほぼこの天狗尾根の南斜面一帯である。天狗尾根から南の水源地方向へ下る支尾根の東斜面を三つに区切り3班に分かれて林床整備作業を行った。この辺りのアカガシはいずれも大きく、中には幹周り180cm(直径約60cm)を超える太いのもあった。

保安林内では、生木には手を入れてはいけないことになっているので、作業は専ら枯損木の伐採と倒木の処理となる。枯損木といえども大木が多く直径40cm以上の木は手に負えないので数本残したが、それ以下のものはほとんど全部片付けた。今回の整備作業終了面積は3班合わせて約0.4ha。

作業用具収納のための用具小屋を作る計画をしていたが、小屋作りは後回しにして取り敢えず組み立て式の収納庫を設置することにしたので、作業をやや早めに切り上げて設置予定場所へ移動し、全員で地固め等の整備をした。

【参加者】

金井良碩 阪下幸一 斧田一陽 福井誠 薦田佳一 倉谷邦雄 秦康夫 石原順子 黒山泰弘 猪川誠

計10名

2014年7月28日(月)9:30~14:00

中型の組み立て式収納庫「タクボ物置」必要資材一式と、予備の棚、運搬用具、作業用具等を購入。物置設置予定場所へ運び込み、全員で組み立て予定地の地ならし

作業と予定地周辺の整備をした。

【参加者】

斧田一陽 薦田佳一 倉谷邦雄 石原順子 杉本佳英 中村賢三

計6名

2014年8月7日(木)9:30~17:40

作業用具収納のための物置の組み立て作業を行う。物置の大きさは、高さ211cm、間口220cm、奥行き159cm。12個のブロックの上に土台を固定し、四隅に設定した升口をセメントで固めてから柱を立てて壁、屋根を取り付け、4、5人がかりで6時間位かかって一応完成した。ところが最後にはめ込んだ開閉部の扉と柱の間に隙間ができてしまった。水準器で何度も確認しながら作業を進めたので水平に問題はない筈だが、どこかで手順が狂ったのか、またはビスの締め具合の強弱が原因なのか完成は次回まわしになった。

組立作業と同時に物置周辺の林床整備も進め、直径40cm前後のヒノキの枯損木3本他、20数本の枯木や枯れ枝の処理もできたので、周辺は大分明るくなった。

【参加者】

斧田一陽 薦田佳一 宮本廣 杉本佳英 真子和久 倉谷邦雄 石原順子 秦康夫 武田寿夫

計9名

2014年8月11日(月)10:00~14:00

前回組み立てた物置に建付け不良箇所があり、修復作業を行う。各所の水平を計測し直してみると、問題のあるところがあった。ジャッキで物置の片側を持ち上げ、土台の高さを調整した結果、傾きは是正されて扉の開閉もスムーズになった。あとは、屋根の樋と内部棚の取り付けを残すのみとなった。

【参加者】

斧田一陽 薦田佳一 宮本廣

計3名

2014年8月17日(日)9:30~15:00

物置仕上げと林床整備の2班に分かれて作業する。物置周辺は、曲がりくねって密生したヒサカキの木が多く、これを伐採した。枝に引っかかって斜めに倒れている松の古木や枯れ枝を片付けると、物置周辺から南方の見通しがよくなった。物置も完全に完成した。重い作業用具類の持ち運びが不要になり、身軽に作業に参加できるようになったのはありがたいことだ。

【参加者】

金井良碩 黒山泰弘 秦康夫 武田寿夫 須本淳史 小櫃徹夫 斧田一陽 宮本廣 倉谷邦雄 杉本佳英

計10名

2014年9月21日(日)9:30~16:00

4班に分かれ、それぞれの持ち場を決めて、保安林内の林床整備作業を行なった。多人数の参加を得て作業は捗ったが、前回は雨で中止になったのと、物置の設置作業に時間を要したため、作業は予定より遅れている。少なくともあと2~3回で44林班内保安林の整備作業を終え、次の予定地45林班での間伐、除伐作業に移る必要がある。帰路、枯葉や土で埋まってしまった登山道水切り溝の整備作業を行なった。

【参加者】

金井良碩 黒山泰弘 秦康夫 武田寿夫 須本淳史 斧田一陽 宮本廣 倉谷邦雄 杉本佳英 中村賢三 薦田佳一 福井誠 猪川誠

計13名



枯損木伐採中 写真提供：秦 康夫

スケッチ同好会〈第2回〉報告

日時 平成26年9月22日(月)

場所 奈良公園

【参加者】

野村哲夫 岩崎しのぶ 浦上芳啓 金井良碩 久保和恵 薦田佳一 中谷絹子 (会友) 横山規江 中野峯子

計9名

第1回(7月7日)は、悪天により中止しました。

個人山行の登山計画書(届)の提出と緊急連絡カードの携行についてのお願い

関西支部山行委員長

関西支部では従来から登山計画書(届)の事前提出が義務づけられていますが、このたび本部への提出も必要となりました。「支部主催の山行」にはもとより、他支部山行への参加、所属山岳会の山行、個人山行も対象になりますので、今後につきましては以下の運用基準に従って登山届の提出をお願いします。

運用基準:

1. 日本山岳会関西支部員は、以下の山行に当って「登山計画書(届)」を提出する
 - (1) 関西支部主催または他支部、所属山岳会の宿泊ともなう山行
 - (2) 個人山行
 - ① 海外登山、海外トレッキング
 - ② 積雪期、岩登りや沢登りなどの日帰り山行
 - ③ 宿泊を伴う山行
2. 登山計画書(届)提出先は関西支部長、副支部長、山行委員長とする
3. 本部への登山計画書の提出は山行委員長よりおこない、個別には提出しない
4. 登山計画書は緊急連絡先(人)にも渡しておくこと

5. 現地登山口登山届提出所、派出所にも提出のこと
6. 登山計画書(届)の様式は支部所定のものとする
7. 緊急連絡カードの携行

※登山計画書・緊急カードの様式は、支部報 HP または山行委員長から入手する。

※提出方法は郵送、FAX、メール添付ファイルのいずれでもよい。

※緊急の場合はメールでの連絡も可とするがその場合、下記の項目は必ず記載のこと。

- ① 氏名 ② 生年月日 ③ 住所 ④ 携帯電話番号
- ⑤ 同行者氏名・携帯電話番号 ⑥ 日程 ⑦ 目的の山
- ⑧ 入・下山コース概略 ⑨ 緊急連絡先氏名・電話番号

提出先:

支部長……………重廣恒夫 078-855-6667

tsuneo.shigehiro@asics.com

副支部長………金井良碩 079-851-9240

kanai-y@w4.dion.ne.jp

山行委員長…山内幸子 072-737-6576

sacchyama2f0710@yk2.so-net.ne.jp

スケッチ同好会例会のご案内

第4回

日時 平成27年1月26日(月)10:30~15:00
 集合 神戸市営地下鉄新神戸駅
 新幹線側改札口前 9:30
 行先 布引貯水池 (徒歩50分、少々上りあり)
 小雨の場合は展望台(東屋あり)
 申込締切 平成27年1月19日(月)
 申込先 横山規江
 e-mail: inatyokoyama@ares.eonet.ne.jp
 携帯 090-7112-1658

第5回

日時 平成27年3月23日(月)9:30~15:00
 集合 近鉄橿原神宮前駅東口9:30
 行先 飛鳥「甘櫨丘」
 (バス約10分、甘櫨丘下車徒歩5分)
 申込締切 平成27年3月16日(月)
 申込先 中谷絹子
 TEL: 0744-29-2760 携帯090-1220-6250

※共通事項

・小雨決行 ・持ち物(水彩を主とする画材一式、カメラ、弁当、飲み物、折り畳み椅子、傘など)

予期せぬ出来事

重廣恒夫

大西保さん逝く

関西支部設立70周年記念事業の一つとしておこなった「西チベット学術登山隊」で隊長を務められた大西保さんが、9月20日72歳で亡くなりました。80周年記念事業のヒマラヤ登山も、大西さん主導でおこなう予定にしていたので途方に暮れています。昨年の春以来何度か大西さんのお宅にお伺いして目標の山を決め、11月中旬に偵察を兼ねてネパールに向かわれる矢先でした。関西空港出発の時間を確認するために入れた電話の先で、「今から入院する。年明けにはネパールに行けるやろ」。しかし、食道癌、胃癌、大腸癌の同時手術は20時間を超える過酷なもので、術後しばらくして病室に伺うと話をするのも苦しいという状況でした。退院後は自宅療養となりましたが、年が明けてお宅にお伺した時も奥様が、「家から一歩も出ようとしない」と言われるように気力は著しく萎え、会話も途切れがちで、いかに突然の大手手術のショックが大きかったかを物語っているようでした。大西さんに最後にお会いしたのは、9月16日でした。11日に住吉仙也さんの米寿を祝う会があり、住吉さんと辺境旅行をご一緒された大西さんにも発起人に名前を連ねていただいたことと、「八海山」の大吟醸の差し入れのお礼にお伺いしたのです。既に酸素吸入をされていたのですが、金色の装束に身を包み「八海山」を手にした住吉さんを大きく引き伸ばした写真を見せると、目を大きく開き嬉しそうにニコリとされました。

お酒が好きだった大西さん宅には、梁山泊のごとく老若男女を問わず多くの岳人が出入りし、その知見に目を輝かし、刺激を受けてヒマラヤへと旅立って行きました。その証として、23日の葬儀には日本全国から多くの岳人が駆けつけ別れを惜しんでいました。ブログ「台風日記」や大阪山の会のホームページで、ネパールヒマラヤの情報を世界に発信し続け、東チベット研究の中村保さんと並ぶ西ネパール研究の第一人者を失った損失は計り知れません。“そろそろネパールヒマラヤ踏査の集大成もせなあかんや”と言っていた大西さんは、“頑張っただけで静養します！ではでは・・・。”と、最後のブログに書き残したまま逝ってしまいました。

「光明院登岳保道居士」、山を愛し、山を登り続けた大西さんにふさわしい戒名です。心よりお悔やみを申し上げます。

御嶽山噴火

9月27日、関西支部県境縦走は和田山の近くの鉄鉦山から稜線を順調に南下して夜久野に近づいた頃、誰かが御嶽山が噴火したらしいと言いました。数時間後、その日の宿「夜久野荘」に入った途端に携帯電話が鳴り始めました。最初は複数の新聞社から事故のコメントを求められたものでしたが、その後は友人・知人からの安否確認でした。

御嶽山は秋の紅葉シーズンの土曜日の昼時の頂上近くでの突然の噴火とあって、死者57人、行方不明者6人と

いう未曾有の山岳遭難事故になってしまいました。09年7月16日、夏山遭難事故としては最大のトムラウシ山遭難事故は、天候の急変による「気象遭難」と言われましたが、遭難の最大の要因はツアー引率者や参加者の対応力の未熟さにありました。しかし、今回の遭難は自然災害の最たるもので、事故に遭われた方々には運が悪かったとしか言いようがありません。年間約24万人が訪れる御嶽山は、当日山頂付近には250人以上の登山がいたとみられています。山頂からの光景を満喫していた登山者に突然、噴石や火山灰が降り注ぐ中で、生きて還った登山者の中にはとっさにザックを頭にかざしたり、岩陰に身を寄せたり、小屋に逃げ込んで難を逃れた方々もおられました。多くは降り注ぐ噴石に打たれて亡くなりました。

日本には活火山が110あり、噴火して被害が出る恐れがある全国47火山について、噴火や噴火の前兆現象を監視する24時間の観測体制が敷かれています。御嶽山もそ

の一つで、中でも活動が活発とされる23火山に含まれています。しかし、事前に御嶽山の地震が急激に増えていたにも関わらず、噴火を予知することはできなかったのです。噴火予知の難しさが浮き彫りになった以上、登山者も噴煙を上げている山に入山する時には、噴火などのリスクのあることの認識と、持ち物などと共に咄嗟の対応をシュミレーションしておく必要があるのではないかと思います。

また、今回未曾有の災害事故ということで19日間という搜索期間と山頂付近の搜索面積が26万平方メートル、延べ1万5176人の自衛隊、警察、消防隊員が動員されましたが、登山者のほとんどが「登山届」を出していなかったことで、搜索をより難しいものにしたという指摘もあります。しかし、通常の間山岳遭難ではこんな大規模の搜索はありえません。家族や多くの人達に心痛や多大な労苦をかけないためにも、計画書や登山届の提出は「登山者の常識」として励行したいものです。

山の音楽(4)一般編

水谷 透

ドビュッシーの交響詩「海」は有名であるが、この曲以外にも単に「海」と題する曲はオーケストラ曲からピアノ曲まで20曲近くある。これに対し、単に「山」と題した曲は寡聞にして石井欽(1921-2009)の交響詩「山」とフェデリコ・モンポウ(スペイン1893-1987)のピアノ曲「山」しか知らない。恐らく個々の山の個性が漠然とした概念より大きくかつ重んじられからではないかと思われる。



また、神長一康(1972-)に交響詩「山よ」、エルネスト・ブロッホ(スイス1880-1959)に「山にて」、ズデニェク・フィビフ(チェコ1850-1900)にピアノ曲「山から」があり、頂上をテーマにした曲にフ

レデリック・ディーリアス(イギリス1862-1934)の交響詩「頂にて」がある。他に、一柳慧(1933-)にピアノ協奏曲第3番「分水嶺」があり、山や山脈・山域ではない違った視点からの曲は珍しいものである。

山の様子を対象とした曲は多く、ティモシー・マー(アメリカ1956-)の「山の頂上からの眺め」、多田武彦の合唱曲「山の印象」、別宮貞雄(1922-2012)の合唱曲「山の四季」、真島俊夫(1949-)の交響詩「美しき山の歌」、ハ

ーバート・サムション(イギリス1899-1995)の「山の旋律」、デオダ・ド・セヴラック(フランス1872-1921)の歌曲集「山の夜明け」、ヴァンサン・ダンディ(フランス1851-1931)には交響詩「山の夏の日」やピアノ曲「山の詩」がある。

ダンディにはよく知られた「フランスの山人の歌による交響曲」があり山岳交響曲とも呼ばれている。

山岳交響曲と呼ばれる曲には、フランツ・リスト(ハンガリー1811-1886)の交響詩「人、山の上で聞きしこと」があり、セザール・フランク(フランス1822-1890)に



も交響詩「人、山の上で聞きしこと」がある。これはヴィクトル・ユゴーの詩集「秋の葉」の一篇に基づいた曲である。同じ題材を扱った作品には、ルイ・シュポア(ドイツ1784-1859)の歌劇「山の精」と、ジークフリート・ワーグナー(ドイツ1869-1930)の歌劇「山の精」もある。

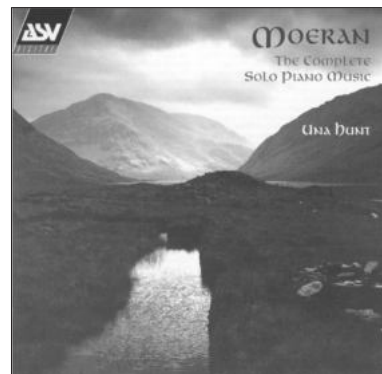
このように山を素材とした詩、民謡、伝説、聖書などによる曲は多くあり、石井欽の合唱曲「三つの山の詩」、エドヴァルド・グリーグ(ノルウェー1843-1907)の歌曲集「山の娘」、シーグル・レ(ノルウェー1871-1904)の「民謡『エ

ランと山の精』による協奏的小品」、ヒューゴ・アルヴェーン(スウェーデン1872-1960)のバレエ音楽「山の王」、アントン・ドヴォルザーク(チェコ1841-1904)には『聖書による歌曲集』の中に「山に向かいてわれは目を上げ」、ボフスラフ・マルティヌー(チェコ1890-1959)のカンタータ「三つの光の山」、ジョヴァンニ・パレストリーナ(イタリア1525-1594)のモテット「聖なる山にその基礎を置き」などがある。

その他に、アラン・ホヴァネスに交響曲第20番「聖なる山への3つの旅」や交響曲第67番「山への讃歌」、チャールズ・アイヴズ(アメリカ1874-1954)の「教会の尖塔と山脈から」、カール・ラッグルズ(アメリカ1876-1971)の組曲「人と山」、ロバート・マンノ(アメリカ1944)の「山からの3つの場面」、ジェラルド・レヴィンソン(アメリカ1951-)の「山の光」、クリスティアン・シンディング(ノルウェー1856-1941)の歌劇「聖なる山」、ジャック・オッフエンバック(フランス1819-1880)の交響的バラード「火山の上に」、アー

ネスト・オースティン(イギリス1874-1947)の合唱曲「山脈の家」、アーネスト・モーラン(イギリス1894-1950)にはピアノ曲「白い山」や交響詩「山国にて」がある。

筆を置くにあたって、我々にとって衝撃的な作品を最後に紹介しよう。それは、ジョセフ・シュワントナー(アメリカ1943-)の「…そしてどこにも山の姿はない」である。(完)



■□■ 自己紹介

村田かおり(会員番号:14595)

はあ、はあ、汗が絶え間なく額を流れる。既にばんばんに張った足は重く一步一步がもう思うように動かない。もう何度目かの「もう少しやで〜」に励まされ、ふと前を見て思わず立ち止まった。そこには圧倒的な威厳を見せる峨峨たる山容が広がっていた。劔岳だ！劔岳が見える！この時を待ってくれていたかのように雲は晴れ、壮大な姿がそこに横たわっていた。劔岳北方稜線「赤谷山」に無事到着した瞬間だ。2009年生まれて初めてのアルプス入りである。ブナクラ峠でお地蔵様と就寝し、次の日には猫又山・釜谷山を縦走。持っている力のほとんどを使い果たし、筋肉痛の足を引きずりながらのよれよれの帰宅となったが心は充実感でいっぱいだった。

この山行から遡ること4年前まで、私は山とは全く無縁の生活をしてきた。仕事の一環で参加した六甲山から火が付き、以来山の魅力に取りつかれている。関西近郊の山から始まり2年目以降は関西支部主催の山行にも参加させていただくようになった。学生時代からどちらかと言えばインドア派だった私にとって登山は簡単なことではない。体力・技術・知識そのどれもが初めの一步であった。足掛け8年、四国分水嶺、ラウンド琵琶湖、近畿分水嶺、4000山グランプリ、県境縦走など支部の諸先輩

方に導かれながら山のいろはから教えていただいている。初めの一步から早くも9年目。神大な山は変わらず私を魅了して止まない。会いたくて逢いたくて踏むその一步をさてどの山へと繋げて行こうか。今年も楽しみである。(2014/06/09受)

立山連峰に魅せられて

魚津清和(会員番号:15328)

日本山岳会関西支部登山教室の初級・中級・上級に参加させて頂いた事がよもや会員に推薦されるとは思いもよらない事であった。

元来、登山とは無縁と思い「氷壁」ブームの時代もさほど関心もなく過ごしてきたが、最近ある方から頂いたウォルター・ウェストン著「日本アルプス：登山と探検」の中に母方の実家廻りと関係があるような記述から強い関心を覚え改めてルーツを辿ることになった。父方は網元だったが養父(祖父)は実業家。著書に工業所有権活用論のある事が最近分かる。母方(養母=祖母)は立山の麓岩嶺寺に生家があり曾祖父は当時立山村の村長初め県会議員・国会議員・地鉄・新聞社と多岐に渡って活躍したようだが身内に居る音楽家の著書の中に少し触れられている部分を垣間見るがウェストン氏についての具体的な記載は無かった。

山との出会いは私の幼い頃、叔父に連れられ立山（雄山）に登った事が始まりだ。印象深い記憶に一ノ越方面から室堂に向かう途中（当時山道は大小ゴツゴツした岩肌で現在のように整備されていなかった）濃密なガスが立ち込める中、雨は下から吹き上げ状態で一瞬ガスが途切れた隙間から目の前に覆いかぶさるような濃緑色をした山容（多分浄土山）を鮮明に覚えている。合わせて叔父と同行した何人もの人が腰に鹿の尻皮をブラ練っている。その鹿の斑点が幼い私の視線で妙に不思議と覚えている。

室堂周辺をハイキング程度で歩くことは多かったが、登山教室に関わってからは地図とコンパスと十分な装備を準備して、毎年墓参りに合わせ雷鳥沢でテントに泊まって立山（連山）を散歩した。昨年の年次晚餐会で飯田肇・福井幸太郎両氏の「立山連峰における越年性雪渓研究及び日本初の現存氷河の発見」の講演を拝聴し、改めて立山連峰の魅力に接する機会を得、今後は「自然の景観や事象の変化」について観察する目を養いつつ、同時に厳しい登山教室での教訓を実践登山に活かしていきたいと思う。

(2014/04/16受)

追悼

水谷弘治

大西 保さんを偲んで

大西君が山以外で亡くなるとは信じられない。昨年の後半に体調を崩して入院、胃を手術したとは彼を知る者として想像できなかった。きっと今年の春もネパールへ行って、東ネパールか或いは北西ネパールの辺境やトルボの地を歩き、登っているはずだった。彼がネパールへ行きかけたのは1970年代からだと思うが、今やヒマラヤ登山に精通し、西ネパールからトルボ、ムスタンを中心にネパール全域にわたりチベットの辺境にまでも及んで、彼が知らない場所は殆どないのではなかろうか。そんな彼も大阪山の会へ入会した時は関大の学生だった。当時、どこの社会人山岳会や大学山岳部も新人の夏山は南アルプス縦走だった。彼が赤石岳や塩見岳の登りでは鼻血を出して歩いたことが今も話題にのぼる。私と行った北海道・十勝岳の山行ではクマに出合い携帯ラジオをガンガン鳴らして歩いたなど彼との個人的な思い出は多い。そんな大西君が1966年、先輩の吉永さんたちとカナダからアメリカ、メキシコへと自動車を使って半年以上にわたる海外登山に出かけ、国外の山に目覚めることになる。1972年頃から吉永さんの影響もあってネパールヒマラヤを志向し、海外登山へと進んでいった。また、持ち前の積極性もあって対外的にも人間関係が広がっていく。特に私たちが登った西ネパールのツオカルポ・カン頂上から撮ったチベット国境の山並みに注目したのが、いわゆるトルボの山域に目を向ける端緒となった。ヒマラヤを目指す岳人とも接触し、クンプの山などにも登り、韓国のクライマーとも交流して実績を残している。群馬の人達と「雪男・イエテイ」の探査にも出かけて広い人脈を見せ、また台湾の沢での初遡溪記録も残っている。2004年には

日本山岳会関西支部70周年記念行事として西チベット学術登山隊を率いて未知の山域に挑戦、パチュンナム峰とギャンゾンカン峰の初登頂にも成功した。



トルボへの憧憬は吉永さんであるが、その登山活動、踏査、実践については大西君の独壇場であった。時を同じくして河口慧海の日記が発見され、チベットへ越えた峠を明らかにすることに彼も大きく関わった。日ネ協会の高山先生、高野山大学の奥山先生とも関係し、次第に解明されてゆくが、ここでも彼が実際にクン・ラに立って、チベット側の地形を自分の目で見ることになる。私も同じ場所に立つ機会があり、日記にある景色を見ることができ感激、大西君の行動力には敬服した。

大阪山の会では、大西君がリードしてネパールへ行った回数は数多いが、いずれも西ネパールの辺境の地ばかりである。登山としてはカンティヒマール、ナラカンカール、アルニコチュリー、カンテガと他にも未踏峰が数多くある。ムスタンは勿論、ムグからトルボへの数回の横断などは、彼が主として計画し、馬に乗って訪れたチベット国境の山と峠だった。しかし、そんな山中の毎日も楽しいばかりではなく、親しい仲間でもトラブルは多い。こちらが先輩面をして「おい大西」と大声を出す。大西君曰く、シェルパやポータの前ではバラサーブと呼んでくれないと困ると文句が出た。

彼の海外登山はネパール以外にも含めて70回にも及ぶと聞く。昨年の暮れ、病院に見舞った時には来春もまたネパールへ行く予定だと言っていたが、71回目はならなかった。まだまだ新しい山域を目指して意欲旺盛だっただけに、本人も病に倒れて無念であったと思う。謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。(2014年9月20日逝去)

大西 保(おおにし・たもつ)

【略歴】

1947年生れ 大阪山の会・日本山岳会・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会各会員 ほか多数の会にも所属

パサンナムチュリー峰ネパール側初登攀、カンティヒマール6000m峰2座初登頂、カンティヒマール南壁、チャンラ南西峰初登頂、ドルポ/ムグ横断、イエメルカン初登頂、ムスタン無名峰6227m初登頂、チャンワタン、ナラカンカール初登頂、ムスタンヒマール、アルニコチュリー峰初登頂、サリブン峰、ノルブカン北壁初登頂、ギャンゾンカン初登頂 マナスル西側のツラギ峰とブンギ峰など多数。



吉永定雄さん「憧れのトルボ」

私たちにとってヒマラヤの大先輩である吉永さんが亡くなった。吉永さんは特に西ネパールに精通し、トルボ地域の研究や文献、地図については登山界では第1人者で知られている。かねてから体調を悪くして日本山岳会をはじめ、日本ネパール協会など各種の集会からは遠ざかっていた。

吉永さんの山歴を語る時、まず1966年、大阪山の会として初めての海外登山で、カナダからアメリカ、そしてメキシコまでを半年かけて自動車で走り、登山を続けながら縦断した。当時としては形破りの行動であり、その時に知りあったアメリカの著名なクライマーとは現在までも交流があったと聞く。それ以後、吉永さんのヒマラヤに対する思いは強く、特に興味を持ったのが西ネパールのカンジロバ山群で、その時代にはまだよく解明されていない山域などが多くあった。イギリスのジョン・タイスンなどの文献や地図などから、それを少しでも解明するために実行に移したのが1971年の大阪府山岳連盟「西ネパール・カンジロバヒマール登山隊」だった。この時の隊長は先日亡くなられた阿部支部長、副隊長は吉永さんだった。私も隊員として未踏峰のツオカルポ・カン(6656m)に登ることができた。西ネパール・カンジロバ峰の大阪市大による初登頂以後、吉永さんなどの力でこのエリアの山塊が次第に解明されてきた。

そして、次なる思いはツオカルポ・カンの山頂から眺



めた、チベット国境に広がる「憧れの地・トルボ」へと移っていった。トルボと言えば、これも先日亡くなった吉永さん

の後輩・大西保君がいて、河口慧海の研究なども含めて強い思いがあった。トルボ地域のことは、亡くなるまで吉永さんの頭からは離れることはなかったと思われる。古来、トルボ地方は西ネパールの辺境の地であり、チベット国境の近くにあって訪れる人もまれで、1956年にそんな地域を歩いたイギリスの仏教学者スネルグローブの「ヒマラヤ巡礼」の本を訳し、その足跡を辿ろうとしたのが吉永さんのトルボへの関わりだった。1958年の川喜多隊の入域のあとは、吉永さんも何度かトルボを広く歩くこととなった。100年余り前、仏教の経典を求めてチベットへ越えた河口慧海の峠はどこかと詮索しながら、トルボの峠を歩いたことが思い出される。いずれにしてもトルボへの研究の思いが我々に伝わり、ムスタンへも繋がっている。数年前になって体調を悪くし行動がにぶくなったものの、吉永さんの頭の中にはいつもトルボのことが駆け巡っていたはずである。

ここで吉永さんのために日本の山へも精力的に登っていることを付記する。1963年南アルプス・北岳バットレス中央稜、厳冬期第3登があり、秋にも中央稜や2峰獨標ルートも登っている。当時としては前穂高岳、笠ヶ岳、錫杖岩など、積雪期含めての登攀記録があるクライマーだった。パートナーとしていずれの登攀も一緒だった私には、当時の苦労が思い出される。個人的には、登山以外での私的な面も含めてお世話になり、よき人生の先輩であった。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

(2014年9月28日逝去)

吉永定雄(よしなが・さだお)

【略歴】

1932年生まれ 大阪山の会・日本山岳会・日本ネパール協会各会員
白水社刊・スネルグローブ著「ヒマラヤ巡礼」、「わが山エヴェレスト：テンジン自伝」、同朋舎刊National Geographic Society編「マウンテンワールド：地球に生きる・地球と生きる」(同朋社出版)翻訳 ナカニシヤ出版・クリンチ著「ヒドンピーク初登頂：カラコルムの秘峰8068メートル」共訳 七賢出版・大谷映芳著「ドルポ：ネパールヒマラヤ最奥の整地」解説 その他、寄稿・解説・地図作成多数

Room日録 2014年

8月3日(日) 八十年史編集会議 支部報編集委員会	9月5日(金) 郵便受け取り 8日(月) 郵便受け取り 10日(水) 支部報発送 水曜日	3日(金) 支部報特別号作業 8日(水) 水曜日 14日(火) 郵便受け取り 18日(土) 八十年史年表点検 20日(月) 近畿分水嶺踏査報告編 集協議 23日(木) 総務委員会 30日(木) 80周年記念行事打合せ 広報関係担当者会議
6日(水) 水曜日 7日(木) 八十年史資料点検 20日(水) 総務委員会 27日(水) 蔵書を読む会 夏季懇談会打ち合わせ	11日(木) 集会打ち合わせ 13日(土) 八十年史編集会議 24日(水) 支部委員会 25日(木) 本山寺森林づくりの会 10月1日(水) 八十年史編集会議 80周年記念海外登山PJ	
28日(月) 80周年記念海外登山PJ		

受贈一覧

(2014.8.1~10.31受理分)

おおさか山の日イベントガイド、平成26年版 大阪府環境農林水産部 2014.9
山岳大阪 No.202 大阪府山岳連盟
登山月報 第545号 日本山岳協会

兵庫山岳 第566,567,569号 兵庫県山岳連盟
日本山岳会支部報
・秋田山岳 No.94
・やまなみ 第4号 [福島支部]
・千葉支部だより 第28号
・たま通信 第18号
・富山支部会報 No.97
・岐阜山岳 第76号
・東海支部報 No.139
・[京都・滋賀] 支部だより No.116
・JAC北九だより No.70
・熊本支部報 No.32
・宮崎支部報 第50号

第25回 藤木祭 会計報告

【収入の部】	
藤木高嶺氏より	10,000円
藤木氏ご親族より (福知山・野村)10,000×2	20,000円
<拠出金>兵庫県山岳連盟	40,000円
<拠出金>大阪府山岳連盟	40,000円
<拠出金>日本山岳会関西支部	40,000円
<雑収入>利息	32円
小 計	150,032円
前期繰越金	202,460円
合 計	352,492円

【支出の部】	
コーラス御礼	20,000円
演者謝礼 [ご辞退]	0円
印刷代	17,280円
通信費(チラシ送料 切手代)	2,156円
コピー代(歌詞)	1,000円
マイクセットレンタル料	7,000円
記念パンダナ(200枚作成)	144,720円
大谷茶屋支払	31,500円
大谷茶屋御礼	10,000円
おにぎり代(40個)	4,794円
保険料(@40×69名)	2,760円
雑費(打合諸費 運搬費 金封)	8,095円
小 計	249,305円
次期繰越金	103,187円
合 計	352,492円

平成26年10月6日
藤木祭実行委員会会計 久保和恵◎

2015年1月~3月 支部山行計画

※申込先は、後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

14-25 陽だまり山行 青春18キップで行く播磨の山
「三重山(みかさやま)203m」
日 時：1月10日(土)

集 合：JR山陽本線有年駅9時40分集合
(大阪発8:00 新快速播州赤穂行一相生乗換え9:33—有年駅着9:39)

- 地 図：2.5万分の1「相生」
 備考：有年駅南に聳える三角の山で鶴ヶ堂城跡です
 雨天決行 雨天の場合は有年の考古資料館等の見学をします
 青春切符利用できますが切符の販売は12月中です
 申込み：12月24日迄 山内幸子
- 14-26 4000山グランプリ**
 「ゴンニャク山952m・野竹法師970.9m」
 日 時：1月10日(土)・11日(日)
 コース：紀伊田辺駅—尾和田橋—椿尾峠—ゴンニャク山—野竹法師往復
 地 図：2.5万分の1「皆地」
 備考：詳しくは担当者に問い合わせてください
 難易度の高い山 テント山行
 80周年記念海外登山のトレーニング山行
 一般参加可 山岳保険加入が必須
 申込み：1月5日迄 重廣恒夫
- 14-27 レスキュー講座**
 「蓬莱峡にて」
 日 時：1月17日(土) 9:00~15:00
 場 所：蓬莱峡
 集 合：蓬莱峡広場に9時集合
 内 容：ロープの結び方とまとめ方
 滑落者の引き上げ技術(ロープ使用)
 搬送技術A(通常の登山時に持参している装備や衣類・ストックを利用した方法)
 搬送技術B(ロープ担架の作り方)
 持ち物：個人装備 雨具上下、スリング、カラビナ(2枚以上)、ハーネスまたはウエストベルトまたはその代用になる幅広ナイロンテープなど、直径7mm前後の補助ロープ10m程度
 団体装備 クライミングロープ40~50m
 備考：事前に座学の予定あり
 申込み：1月8日迄 山内幸子
- 14-28 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる19**
 「竜門山系 多武峰から御破裂山・談山神社」
 日 時：1月22日(木)
 コース：JR・近鉄桜井駅(バス)多武峰バス停—細峠登山口—竜在峠—多武峰—御破裂山—談山神社(バス)JR・近鉄桜井駅
 地 図：2.5万分の1「畝傍山」
 備考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
- 歩行距離約12km 歩行時間約4時間30分
 申込み：1月15日迄 久保和恵
- 14-29 関西支部県境縦走25**
 日 時：1月24日(土)・25日(日)
 コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
 HP等で確認してください
 備考：詳しくは申込者に連絡します
 申込み：1月10日迄 黒田記代
- 14-30 4000山グランプリ**
 「総門山948.6m・南亦山981.8m」
 日 時：2月7日(土)・8日(日)
 コース：三瀬谷駅—江馬—総門山—南亦山—伊勢大内山駅
 地 図：2.5万分の1「間弓」「江馬」
 備考：詳しくは担当者に問い合わせてください
 難易度の高い山 テント山行
 80周年記念海外登山のトレーニング山行
 一般参加可 山岳保険加入が必須
 申込み：2月2日迄 重廣恒夫
- 14-31 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる20**
 「京都南部・三上山」
 日 時：2月19日(木)
 コース：JR棚倉駅—三上山—海住山寺—恭仁京—JR加茂駅
 地 図：2.5万分の1「田辺」
 備考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
 歩行距離約10km 歩行時間約4時間30分
 申込み：2月10日迄 久保和恵
- 14-32 関西支部県境縦走26**
 日 時：2月21日(土)・22日(日)
 コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
 HP等で確認してください
 備考：詳しくは申込者に連絡します
 申込み：2月7日迄 黒田記代
- 14-33 五支部合同スキー山行**
 「谷峠から護摩堂山1152m」
 日 時：2月28日(土)・3月1日(日)
 宿泊所：白峰温泉の里「御前荘」
 石川県白山市白峰ツ112-3
 TEL：076-259-2224
 集 合：28日 御前荘ロビー集合15時~
 コース：ホテル—谷峠—護摩堂山—ホテル
 備考：詳しくは申込者に連絡します

ワカン・スノーシューでの参加も可能です

申込み：1月31日迄 廣田猛夫

14-34 4000山グランプリ

「越前大日山1319.6m・大日山1368m」

日 時：3月7日(土)・8日(日)

コース：越前勝山駅—横倉—大日峠—越前大日山—大日山往復

地 図：2.5万分の1「北谷」「龍谷」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください

難易度の高い山 テント山行

80周年記念海外登山のトレーニング山行

一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：3月2日迄 重廣恒夫

14-35 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる21

「西脇・丹波 白山から妙見山」

日 時：3月26日(木)

コース：JR加古川線本黒田駅—狸岩—白山—妙見山—衝立岩—JR本黒田駅

地 図：2.5万分の1「篠山」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く山行でコースを変更する場合があります
歩行距離約12km 歩行時間約5時間

申込み：3月11日迄に 久保和恵

14-36 関西支部県境縦走27

日 時：3月21日(土)・22日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：3月7日迄 黒田記代

申込み先一覧

久保和恵 Fax：079-565-0530

e-mail：uncletorys05-kazu@nifty.com

黒田記代 e-mail：kuroda@makino.kmu.ac.jp

重廣恒夫 Fax：078-855-6667

e-mail：tsuneo.shigehiro@asics.com

廣田猛夫 e-mail：takeohirota@yahoo.co.jp

山内幸子 e-mail：sacchayama2f0710@yk2.so-net.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

3rdステップ

初級『地図とコンパスを持って六甲山を歩く』

12月11日(木) 冬の安全・快適登山術(座学)

1月13日(火) 五助山～石切道～荒神山

2月3日(火) 双子山～シェール槍～新穂高～石楠花山

3月3日(火) 白水山～最高峰～大平山～座頭谷

中級『沢歩き』

12月11日(木)冬の安全・快適登山術(座学)

1月29日(木) 白石谷～湯槽谷山

2月26日(木) 地獄谷～古寺山

3月26日(木) 西山谷～水晶谷

上級『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

12月11日(木)冬の安全・快適登山術・積雪期登山の基礎知識(座学)

1月22日(木) 比良山・蓬莱山

2月12日(木) 比良山・堂満岳

3月12日(木) 比良山・蓬莱山

2015年 1月～3月 自然保護行事

1 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づくりの会活動)

- ・1月8日(木) 45林班ろ3 間伐、森林整備
- ・1月18日(日) 45林班ろ3 つるきり、森林整備
- ・2月5日(木) 45林班4 つるきり、森林整備
- ・2月15日(日) 45林班4 つるきり、森林整備
- ・3月5日(木) 44林班 巡視、森林整備
- ・3月15日(日) 45林班 巡視、森林整備

※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時50分

(参拝者駐車場 9時30分)

2 東お多福山ススキ草原復元活動

定例活動なし 臨時活動日は問い合わせてください

3 自然観察会(本山寺山森林づくりの会行事に参加)

- ・12月13日(土) 本山寺山の森を訪ねる
- ・2月5日(木) 鹿食害と捕獲対策観察ほか

※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時50分

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

※締め切り：開催日の一週間前まで

ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15〔税抜〕
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

ロープレスキュー技術
堤 信夫 著
2000円
登山家や救助・防災関係者必携。現場で使えるロープテクニクの手順・方法を、図解イラストでわかりやすく解説。

ブータンの小さな診療所
坂本龍太 著
2000円
ブータンに憧れた一人の医師が、様々な困難を乗り越え、多くの人びとの協力のもとスタートした、地域に根ざす高齢者健診プロジェクトと心温まる交流の記録。

新刊
一等三角点全国ガイド
一等三角点研究會 編著
（正）2000円・（統）1800円
千点余の全一等三角点（正編は五百m以上、続編は五百m未満）の基本データと登山道を案内。高山以外にも、無名峰、ヤブの中から民家の庭先まで、その所在地は多士済々。

好評発売中！

登山案内 ◎会員による実地調査 ついに完結！！
一等三角点全国ガイド
続 一等三角点全国ガイド



エスカルゴ山の会編 A5判 208頁 2000円
生駒・金剛山系 9コース / 奈良中部の山々 12コース
室生・俱利伽藍山系 8コース / 台高山系 19コース
大峰山系 36コース / 奥高野・果無山系 8コース
計172山・92コース 登山口の最寄駅から山頂を経て帰途の最寄駅まで、美しい写真と地図をそえて、コース全体をアドバイス。

奈良名山案内 世界遺産の峰めぐり

好評発売中！ 大和・奈良の名山をオールカラーでガイド！

コンパクトな日程でメキシコ第4と第5の高峰に登頂

SF冒険小説「失われた世界」の舞台上でトレッキング

トルーカ山とマリンチェ山
メキシコ4,000m峰2座登頂 8日間

秘境ギアナ高地、ロライマ山へリトレッキングと
世界最大落差の滝エンゼル・フォール 15日間

	出発日～帰着日	旅行代金(東京発着)
残5	1/19(月)～1/26(月)	¥438,000
募集中	4/ 6(月)～4/13(月)	¥438,000

※大阪/東京間 国内線割引運賃制度あり

	出発日～帰着日	旅行代金(東京発着)
残5	1/14(水)～1/28(水)	¥768,000

※大阪/東京間 国内線割引運賃制度あり

コンパクトな日程ながら、メキシコ第4の高峰トルーカ山と、第5の高峰マリンチェ山の2座に登頂します。また世界遺産のティオティワカン遺跡なども訪れる充実の山旅です。



▲トルーカ山の美しい稜線を歩く

南米ベネズエラにある秘境ギアナ高地へ。その中の最高峰ロライマ山でトレッキングを楽しみます。また世界最大落差を誇るエンゼルフォールの直下も訪れる境界の究極の山旅です。



▲テーブルマウンテンの大展望

—◇お知らせ◇—

「ロングトレイル倶楽部」のご案内

世界を代表する“ロングトレイル”の名にふさわしい、各コースをご紹介するロングトレイル倶楽部。専用カタログをご用意しておりますので、お気軽にご請求ください。

◇—アルパイン・メイト・ポイントのご案内—◇

- 当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- 貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- 入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。

観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 ●ポンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3(TGF肥後橋ビル2階)

〈編集後記〉

☆「山の音楽」は今回をもって連載を終えますが、いかかでしたでしょうか？
☆かつてよく歌われた山の歌も、最近耳にすることが減ったように感じます。
☆山の文学や美術については語られることも多く、記事もよく見かけます。しかし山の音楽についてはほとんど語られることも無く、記事に至っては皆目といってよいほどです。そんな思いから書きましたが、結果的に曲の紹介に終始してしまいました。
☆今後は山行記事だけでなく、山の文化面も紙面に取り上げていければと思っています。(M)

発行日 2014(平成26)年12月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 重廣恒夫
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透
制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28